

嬉野市バス交通計画

平成 27 年 3 月

佐 賀 県 嬉 野 市

目 次

序. 調査の目的及び方法	
(1) 調査の目的	1
(2) 調査フロー	1
1. 現況の整理	
(1) 地域特性の把握	2
(2) 公共交通の現状把握	7
(3) 嬉野温泉バスセンター等の状況	9
2. 関連計画の整理	
(1) 地域公共交通連携計画の目標	15
(2) 事業実施内容とスケジュール	15
(3) 事業実施状況と効果	16
3. 課題の整理	
(1) 新幹線開業に向けた課題の整理	17
(2) 嬉野温泉バスセンターの課題の整理	18
4. 先進事例の整理	
(1) 生活利用と観光利用によるバス利用の活性化	19
(2) 利便性が高いバスターミナルの整備	20
(3) 地域活性化・観光振興等を考慮したバスターミナル	21
(4) 新幹線駅とバスターミナルが離れている事例	22
5. 嬉野市のあるべき交通体系	
(1) 嬉野市の公共交通網の考え方	23
(2) 公共交通結節点の役割分担の考え方	24
6. 重点施策の検討	
(1) 公共交通結節点への導入機能の検討	28

序. 調査の目的及び方法

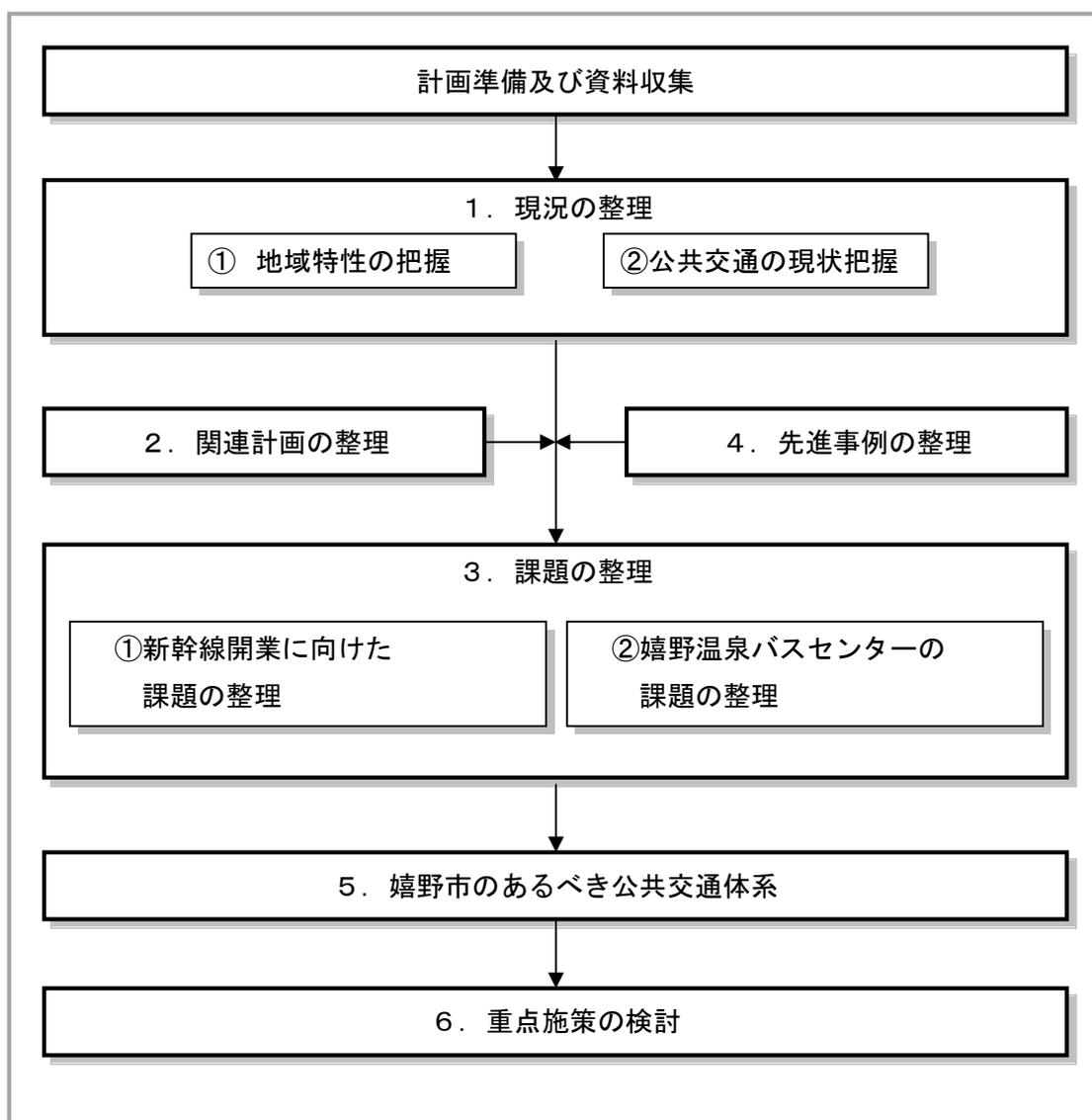
(1) 調査の目的

嬉野市においては、平成 21 年 3 月に「嬉野市地域公共交通総合連携計画」を策定し、公共交通施策について取り組んでいる。

本業務は、九州新幹線西九州ルートの開業を見据え、「新幹線新駅」と交通結節点である「嬉野温泉バスセンター」及び長崎自動車道「嬉野インターチェンジ」との循環も考慮した公共交通ネットワークの構築を目指すとともに新幹線の効果を最大限に発揮し、魅力あるまちづくりに向けて、広域的な視点も踏まえた嬉野市のバス交通計画を策定するものである。

(2) 調査フロー

本調査は、以下に示すフローに基づき行う。



1. 現況の整理

(1) 地区特性の把握

①地域別人口

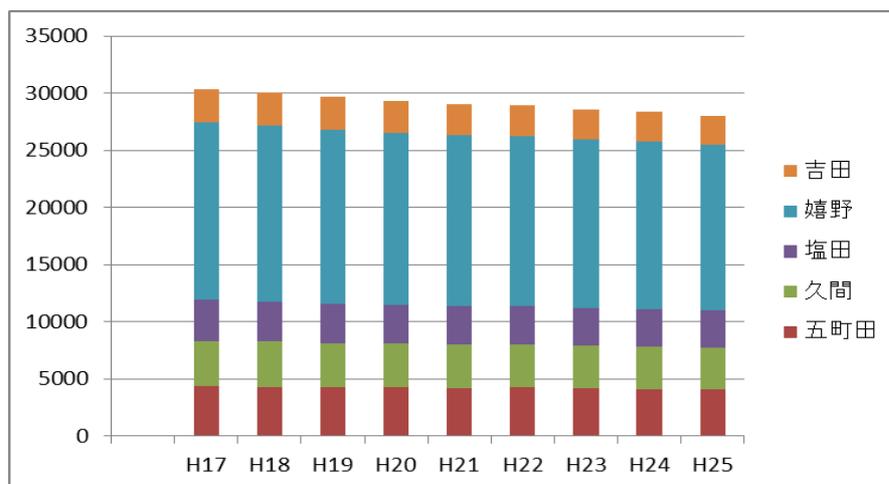
- 本市の人口は経年的に減少傾向にある。
- 特に、吉田地区、塩田地区での人口減少が顕著である。

※コンパクトシティ形成の観点から、中心市街地(嬉野地区)での都市機能充実と周辺地区からのアクセス確保により、人口減少・高齢化に対応したまちづくりが求められる。塩田・吉田地区の地域資源を活用した活性化(温泉街からのアクセス)が必要。

表 1 地区別人口の推移

		H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
五町田	人口:人	4,342	4,317	4,247	4,238	4,224	4,260	4,194	4,114	4,100
	世帯数	1,399	1,410	1,410	1,419	1,416	1,433	1,432	1,420	1,420
久間	人口:人	3,992	3,952	3,874	3,840	3,817	3,769	3,728	3,725	3,669
	世帯数	1,099	1,098	1,090	1,091	1,089	1,091	1,094	1,106	1,108
塩田	人口:人	3,573	3,526	3,443	3,369	3,325	3,303	3,264	3,249	3,210
	世帯数	945	935	935	934	939	938	941	978	979
嬉野	人口:人	15,525	15,352	15,264	15,030	14,939	14,867	14,731	14,682	14,491
	世帯数	5,557	5,529	5,537	5,532	5,535	5,558	5,553	5,567	5,526
吉田	人口:人	2,986	2,886	2,850	2,797	2,754	2,716	2,666	2,585	2,539
	世帯数	866	868	872	870	868	867	872	866	861
市全体	人口:人	30,388	30,033	29,678	29,274	29,058	28,915	28,583	28,355	28,009
	世帯数	9,866	9,840	9,844	9,846	9,847	9,887	9,892	9,937	9,894

図 1 地区別人口の推移 (単位:人 各年 12/31 現在)



②公共施設等の立地状況

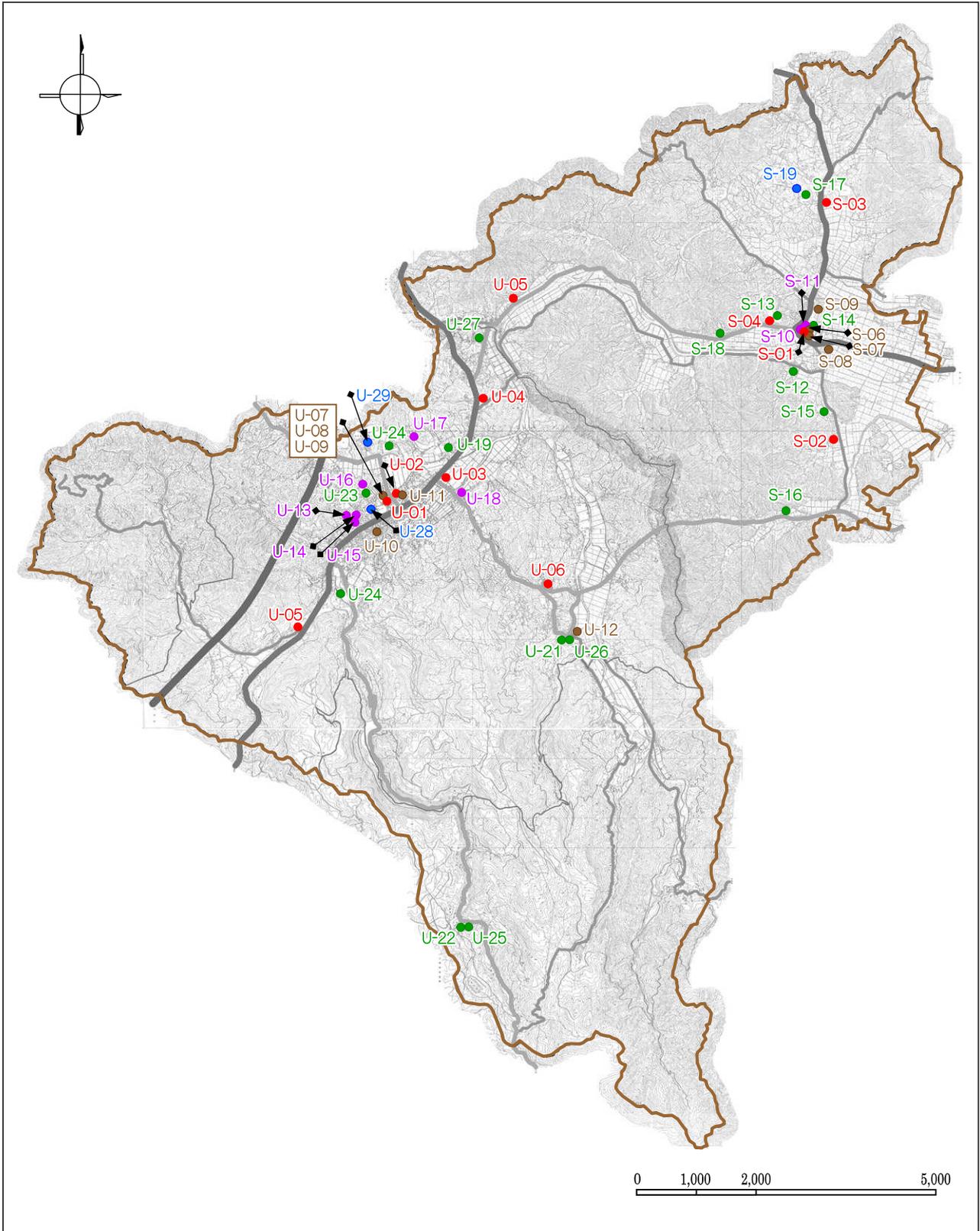
- 主要な公共公益施設は、塩田町、嬉野町の中心部付近にそれぞれ立地しているが、医療・福祉施設や文化・スポーツ施設等は嬉野町中心部付近に立地している。
- 嬉野医療センターは、新幹線嬉野温泉駅周辺地区に移転が決定している。

※公共施設再配置等に対応した公共公益施設の効率化と施設へのアクセス確保が必要である。

表 2 公共公益施設の立地状況

	嬉野町	U-	塩田町	S-
行政施設	嬉野市役所嬉野庁舎	01	嬉野市役所塩田庁舎	01
	嬉野消防署	02	五町田駐在所	02
	鹿島警察署嬉野幹部派出所	03	久間駐在所	03
	今寺駐在所	04	塩田駐在所	04
	不動山駐在所	05	大草野駐在所	05
	吉田駐在所	06		
文化施設	嬉野市文化センター	07	嬉野市中央公民館	06
	嬉野市公会堂	08	塩田図書館・歴史民族資料館	07
	嬉野図書館	09	嬉野市コミュニティセンター	08
	嬉野交流センター	10	嬉野市社会文化会館「リバティ」	09
	嬉野公民館	11		
	吉田公民館	12		
医療・福祉施設	国立病院機構嬉野医療センター	13	保健センター	10
	老人福祉センター	14	老人福祉センター	11
	保健センター	15		
	嬉野保育所	16		
	特別養護老人ホームうれしの	17		
	嬉野デイサービスセンター春風荘	18		
教育施設	県立嬉野高等学校	19	県立うれしの特別支援学校	12
	市立嬉野中学校	20	県立塩田工業高等学校	13
	市立吉田中学校	21	市立塩田中学校	14
	市立大野原中学校	22	市立五町田小学校	15
	市立嬉野小学校	23	市立五町田小学校谷所分校	16
	市立轟小学校	24	市立久間小学校	17
	市立大野原小学校	25	市立塩田小学校	18
	市立吉田小学校	26		
	市立大草野小学校	27		
スポーツ施設	嬉野市体育館	28	北部公園野球場	19
	嬉野総合運動公園	29		

図2 公共公益施設位置図

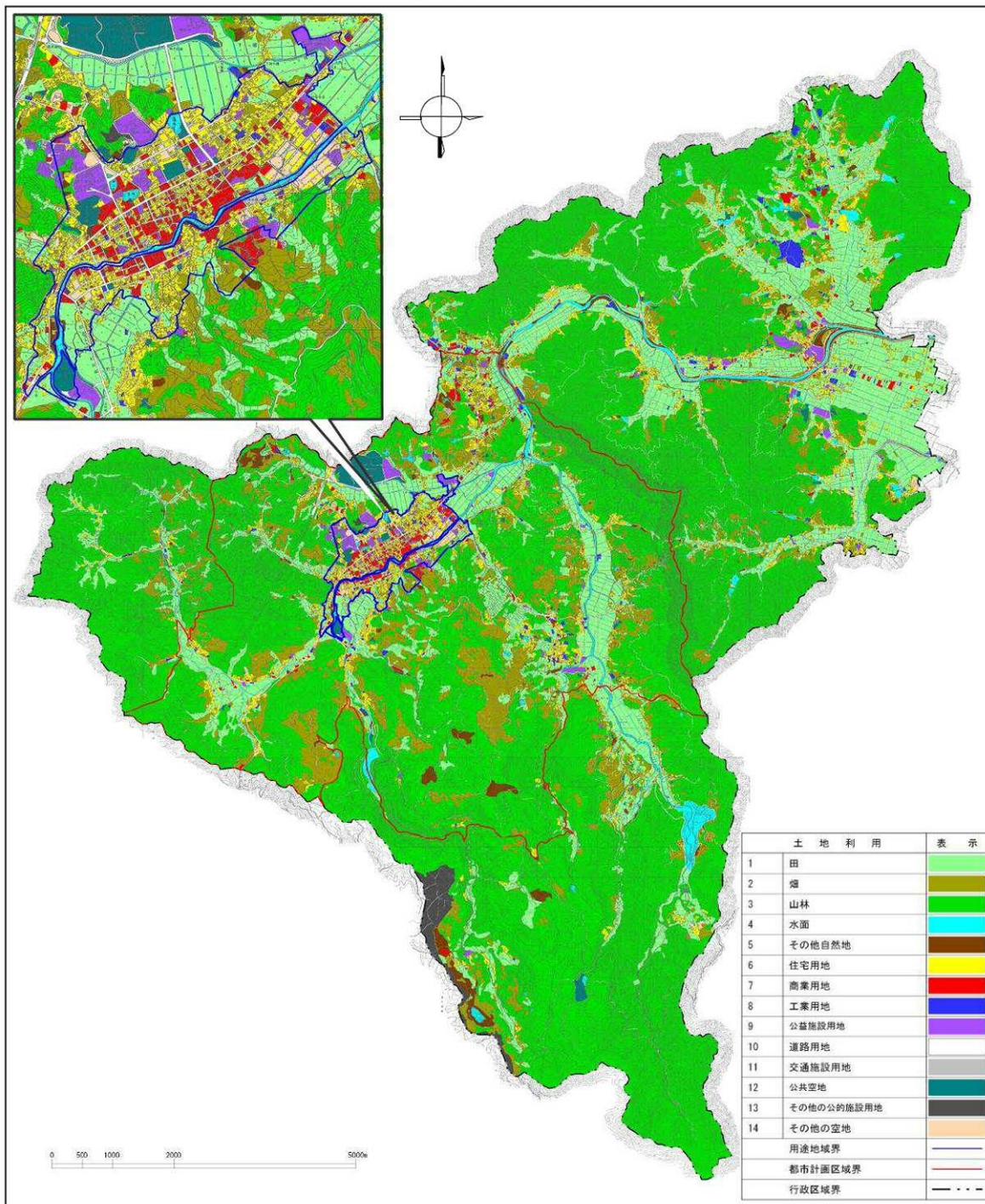


③商業施設等の立地

- 嬉野地区の商業系用途地域内に最寄品を中心とした店舗が立地しているほか、嬉野温泉商店街が形成されており、金融機関や買回り品店舗・飲食店等が立地している。
- 近隣の大規模小売店舗は、ゆめタウン武雄店が立地している。

※コンパクトシティ形成の観点から、中心市街地(嬉野地区)での買い物利便性の向上(食料品など)が求められる。

図3 土地利用(商業用地)の状況

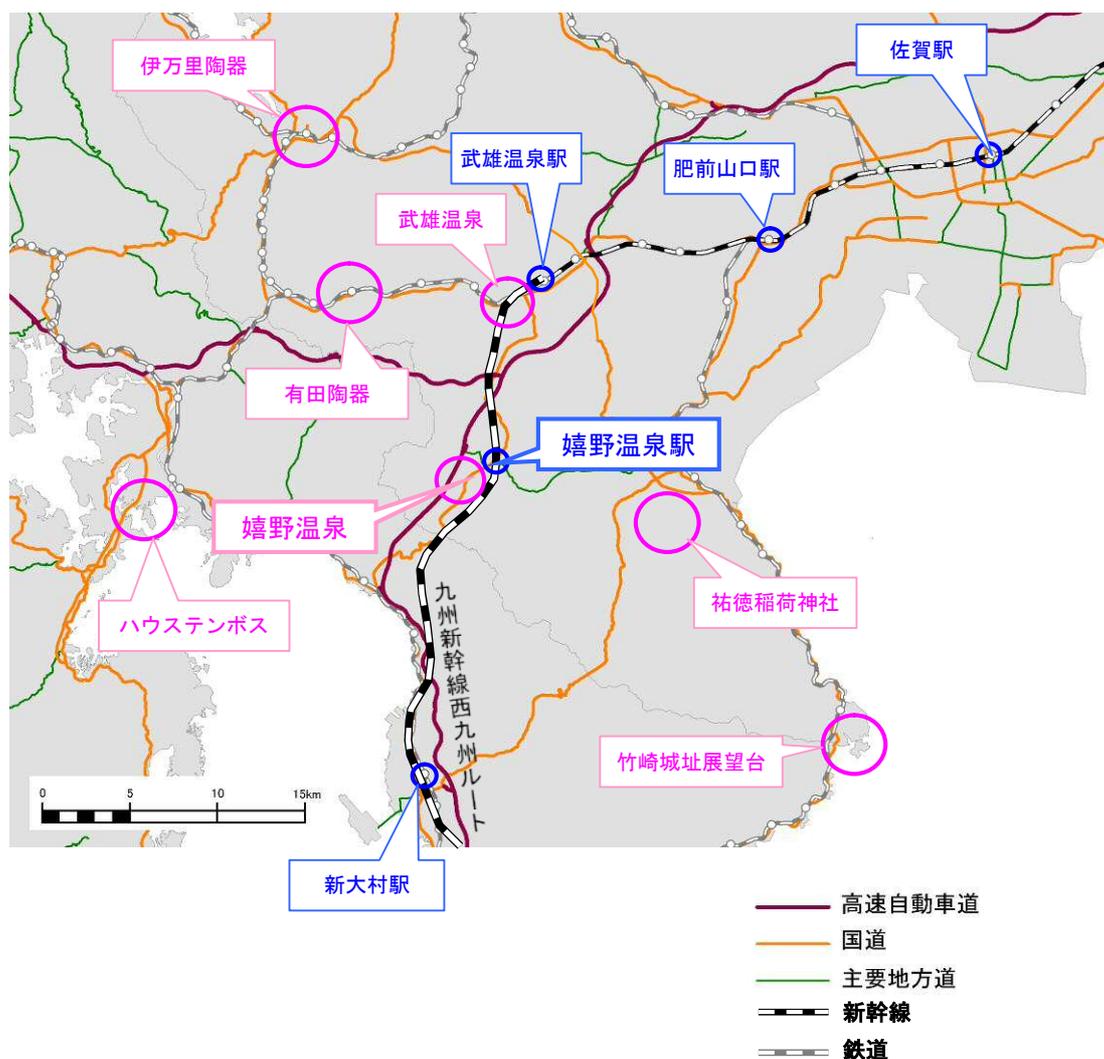


④観光

- 周辺には、祐徳稲荷神社やハウステンボスの他、焼き物で有名な有田や伊万里が立地している。
- 市内の観光資源は、嬉野温泉を中心に、塩田津の歴史的町並みや志田焼・肥前吉田焼、永寿寺などの歴史・文化的資産および肥前夢街道・お茶ちゃ村などの観光施設等があり、多様な観光資源が市内に点在している。
- 嬉野温泉は、県外客および宿泊客が多く、九州、その他の県外を志向している傾向がある。

※嬉野温泉を中心として、市内の観光資源との連携と周辺観光資源へのアクセス確保により、滞在・回遊型温泉地の形成が見込まれる。

図4 観光資源の立地状況



(2) 公共交通の現状把握

○公共交通のネットワーク状況

- ・市内には、生活交通路線として祐徳バス3路線（祐徳線、嬉野線、吉田線）、JR九州バス嬉野線、西肥バス佐世保線の5路線があり、廃止路線代替バスとして4路線（上久間線、下吉田線、三間坂線、牛の岳線）が嬉野市内中心地と各地域を結んでいる。その他、乗合タクシーが2路線（大野原線、春日線）運行している。路線バスの利用者の推移は、年々減少しており、現況では一便あたり0.5～3人程度であり、運賃収入だけでは、バス路線の維持が困難な状況にある。なかでも路線バスが運行されていた上久間線は平成20年9月末をもって廃止され、定時定路線の乗合タクシーに代替されており、他の廃止路線代替バスについても維持が危ぶまれている状況にある。
- ・広域的路線としては、九州急行バスの高速バス福岡～長崎線や有明佐賀空港リムジータクシー（乗合制・予約制）がある。
- ・市内には九州横断自動車道嬉野ICが立地しているほか、新幹線嬉野温泉駅が計画されている。（平成34年完成予定）

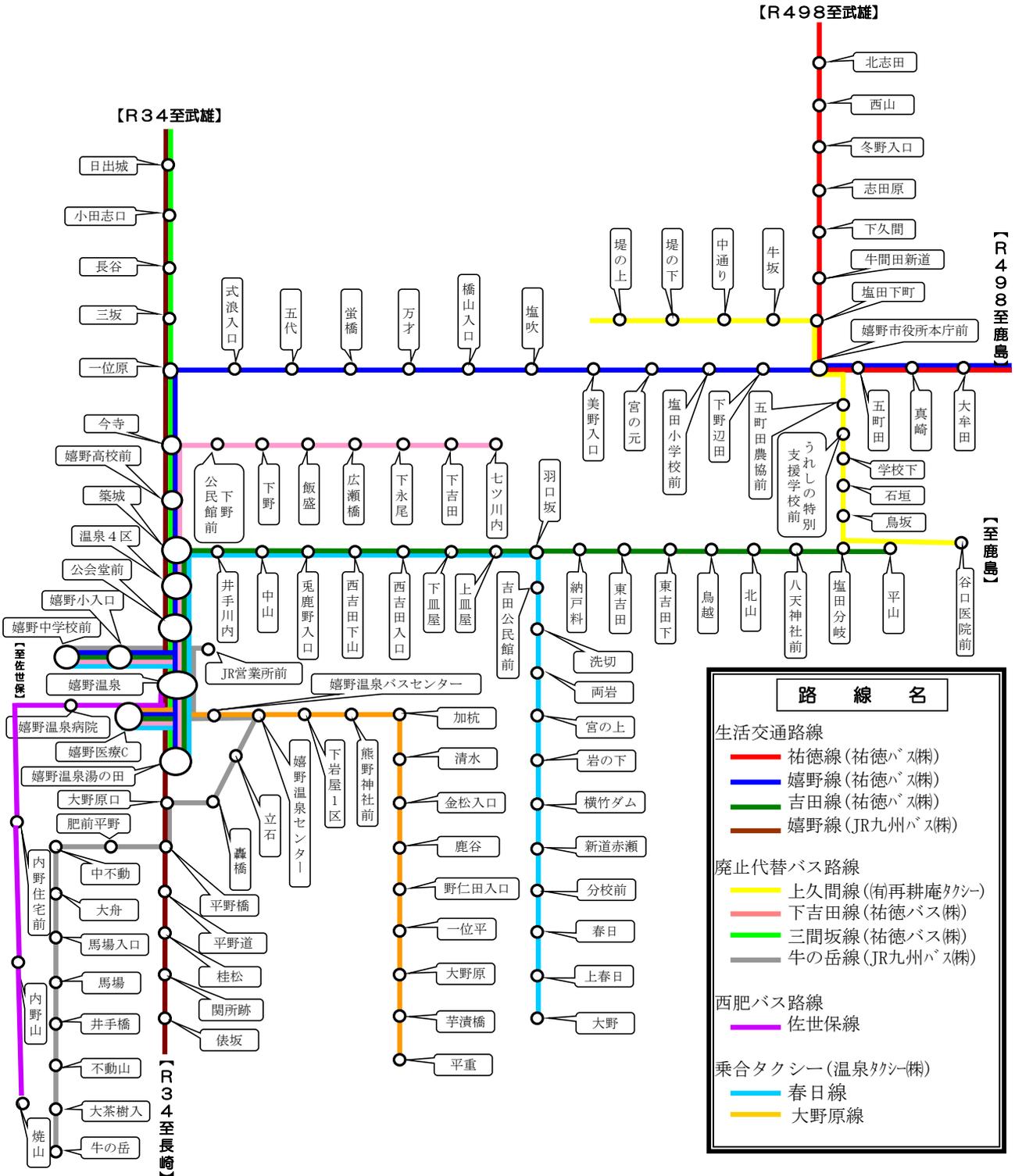
※バスの利用者増加と利便性向上を図る必要がある。そのために、新幹線嬉野温泉駅開業の効果を公共交通網の活性化に活用していくことが望まれる。

図5 公共交通網



※有明佐賀空港リムジータクシーの乗降場所は、嬉野温泉街及び嬉野市役所塩田庁舎周辺

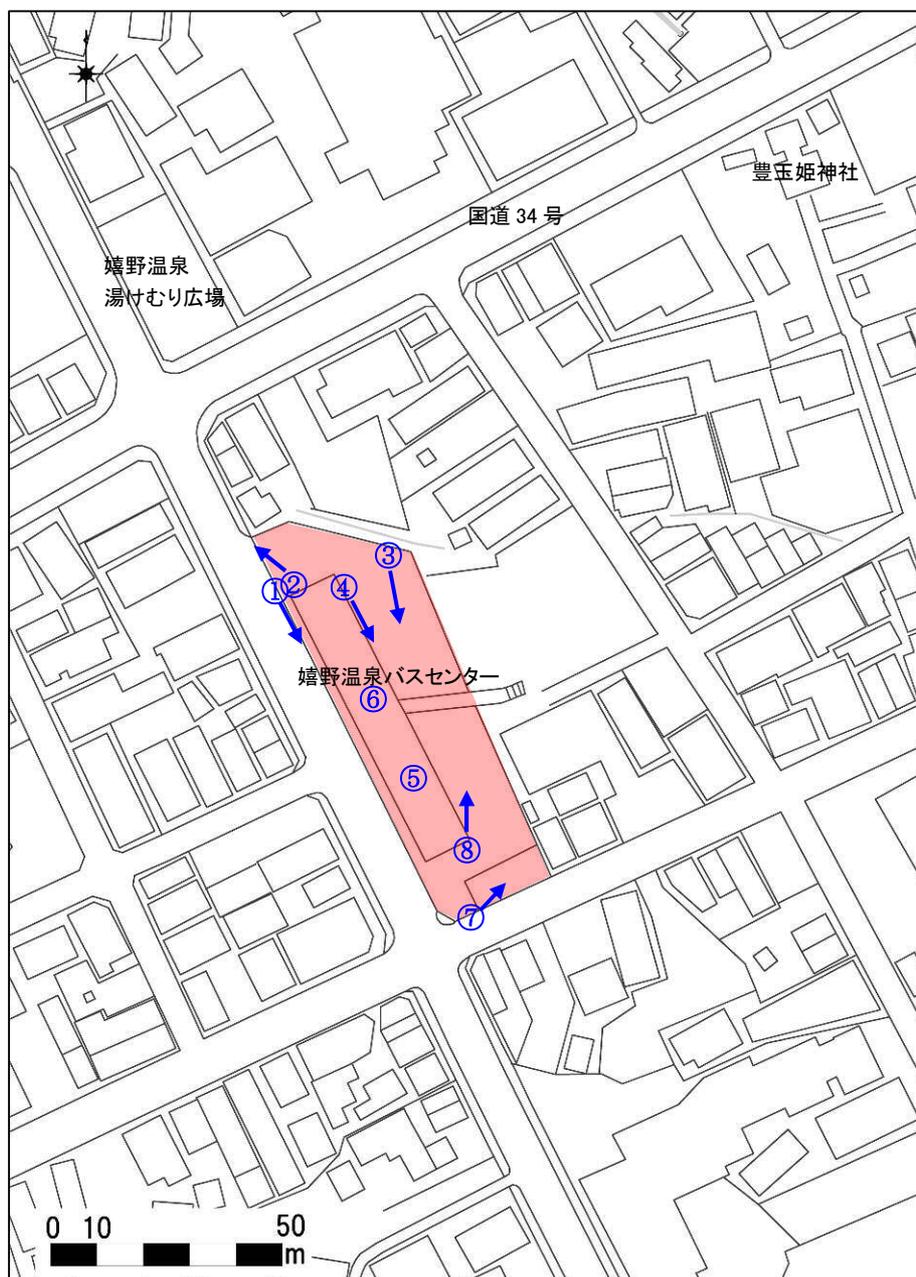
図6 嬉野市地域公共交通路線網図



(3) 嬉野温泉バスセンター等の状況

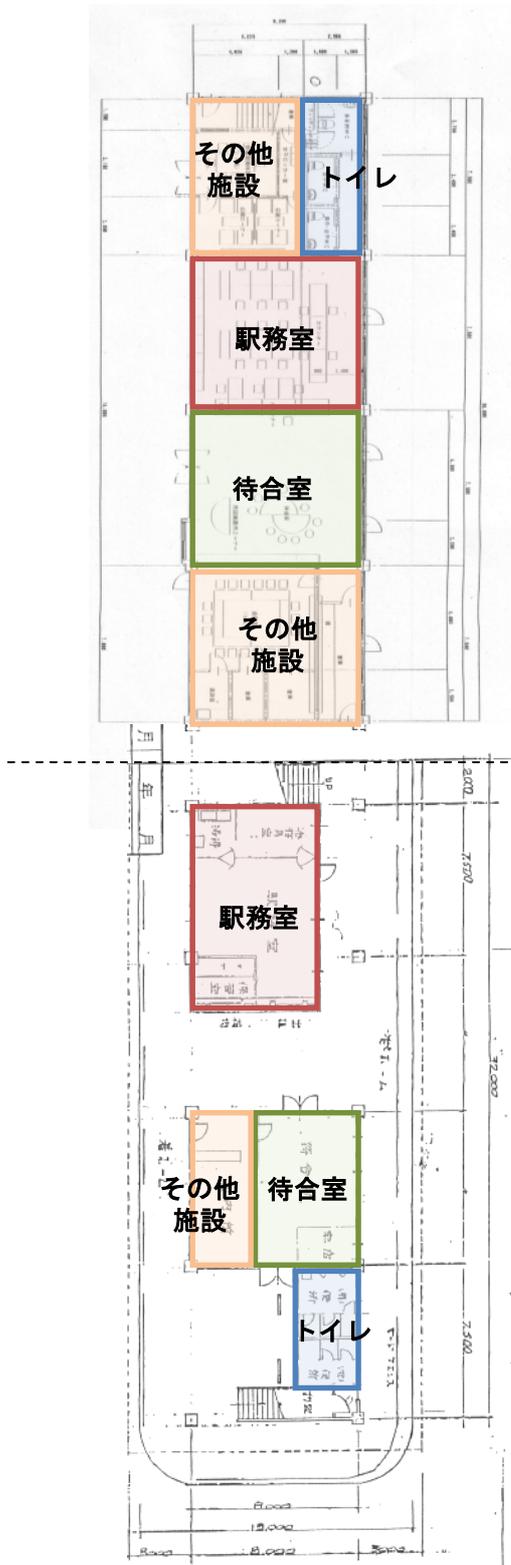
① 嬉野温泉バスセンター

- ・施設は昭和 45 年に築造され老朽化しており、2階部分の一部、嬉野温泉芸能組合の練習場として利用されているが、大部分は利用されていない。
 - ・JRバス、西肥バス、祐徳バスが利用しており、市内各路線のほか、武雄市（ゆめタウン）や彼杵駅、鹿島バスセンター・祐徳神社、波佐見・佐世保バスセンターを結ぶ路線がある。また、博多バスターミナルと長崎駅を結ぶ九州急行バス（九州号）や有明佐賀空港へ直行するリムジンタクシーも利用している。
 - ・送迎車や観光案内所利用者が一時的に駐車するための駐車場が不足している。
- ※市内・広域路線が集約しているメリットを活用した有効利用（情報発信の場など）が望まれる。

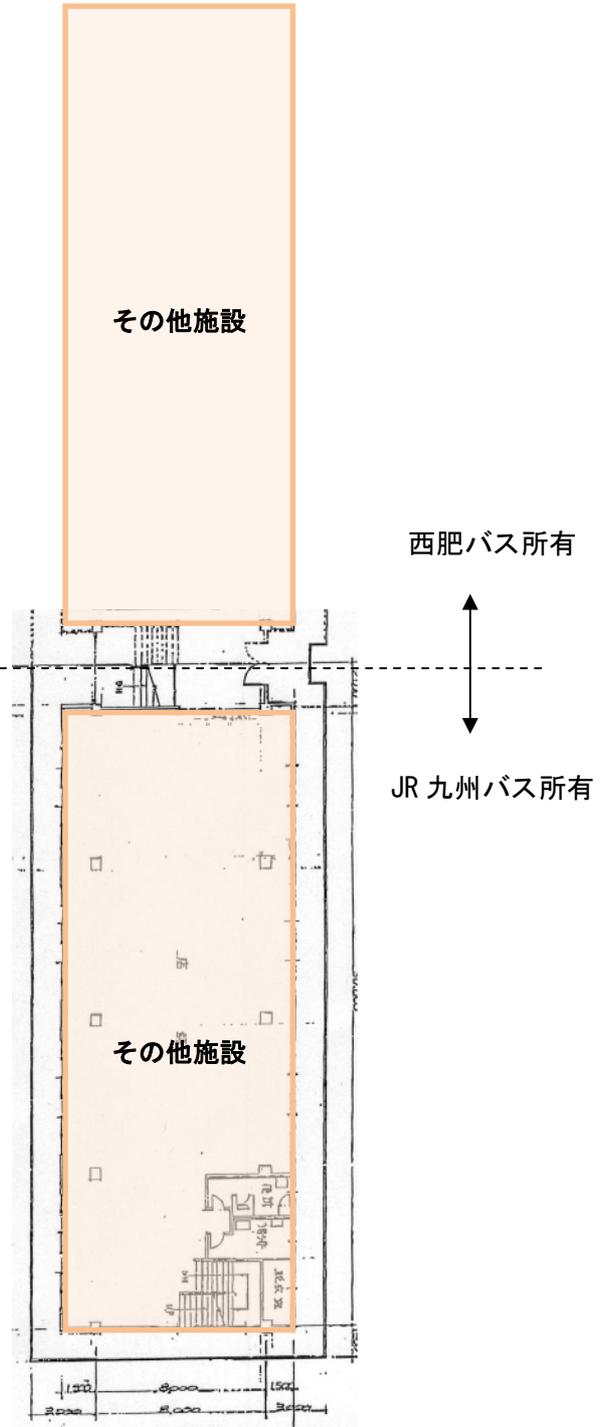




1階平面配置図



2階平面配置図



②嬉野 IC 高速バス停留所

- ・福岡～長崎間を往復する高速バスの九州急行バスの停留所。
- ・周辺には、普通車約 120 台、大型車 5 台が駐車可能な市営駐車場が整備されている。
- ・また、現在は、嬉野市商工会嬉野出張所となっているが、観光案内所として整備された建物がある。



③嬉野市役所塩田庁舎前バス停留所

- 嬉野市役所塩田庁舎前バス停は、方向別に3箇所分散し、鹿島方面バス停と武雄方面バス停では、約200m離れており、3箇所の位置の案内表示がない。
- 嬉野温泉バスセンターとともに、嬉野市内の有明佐賀空港リムジンタクシーの乗降場となっている。



④新幹線嬉野温泉駅

- 平成 34 年開業予定の九州新幹線西九州ルートの新幹線嬉野温泉駅に路線バスが乗り入れ可能な駅前広場が計画されている。
- 新幹線嬉野温泉駅周辺には、平成 30 年に嬉野医療センターが開業する予定。



2. 関連計画の整理（「嬉野市地域公共交通連携計画（平成21年3月）」の実施状況）

（1）地域公共交通連携計画の目標

- ①広域基幹バス路線の充実
- ②地域生活交通の見直し（○上久間線乗合タクシーの持続的な運営 ○地域生活交通の再生（上久間線沿線以外の地域） ○公共交通空白地域等に新たな公共交通の導入）
- ③通学交通における課題の検討（○福祉車両のスクールバス利用の可能性 ○保護者の負担実態の把握 ○運賃負担の在り方）
- ④インターチェンジ・高速バスと温泉街の循環バスの検討
- ⑤事業の持続的な運営（○利用者増による運賃収入の増加 ○宿泊施設や集客施設等による運営費の一部負担 ○広告収入の増加）
- ⑥交通結節点の検討（○複数交通手段の結節点 ○広域基幹バス路線と地域生活交通の結節点）
- ⑦地域交通の整理
- ⑧周辺観光の検討

（2）事業実施内容とスケジュール

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度以降
	4月 9月 12月 3月	4月 9月 12月 3月	4月 9月 12月 3月	
乗合タクシー等 実証運行事業	[上久間線] 運行の見直し		本格運行	
	[春日・大野原線]	実証運行	本格運行	
	[下吉田線]	調査運行	実証運行	本格運行
	[不動山・牛の岳線および空白地域]	調査運行		実証運行
	[持続的な運営・交通結節点の設置および検証・地域交通の整理]			実証運行
循環バス 及び 周遊観光 実証運行事業	[循環バス]	調査及び運行計画の策定	実証運行	本格運行
	[周遊観光]	調査及び運行計画の策定	実証運行	本格運行
	[持続的な運営・交通結節点の設置および検証・地域交通の整理]			
広域基幹 バス路線改善事業	利用促進策の計画策定	乗車人員増加策の実施		

(3) 事業実施状況と効果

①乗合タクシー等実証運行事業

- ・上久間線、春日線および大野原線において、平成21年10月から実証実験を実施。
- ・上久間線の利用者数は、経年的に減少傾向。春日線は減少傾向から横ばい・増加傾向になりつつある。大野原線は100人程度で横ばい傾向。
- ・各路線ともに、事業収支は赤字であり、利用者増のみでの収支改善は困難な状況にある。

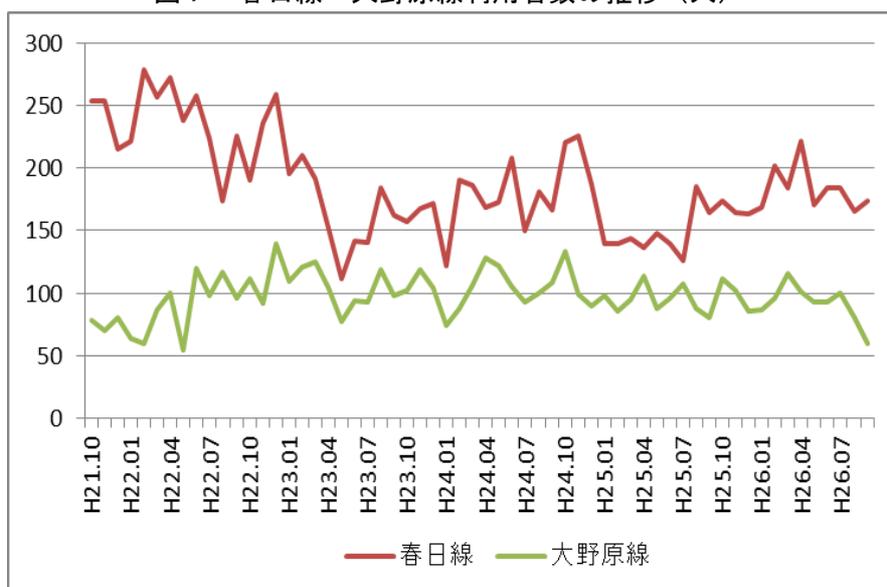
・バスセンターは、バス事業者の民間施設であるため、乗合タクシーは入れない。

※観光対応のほか、広告・イベント等による収入増と事業価値の創造が必要である。

図7 上久間線利用者数の推移（人）



図7 春日線・大野原線利用者数の推移（人）



3. 課題の整理

(1) 新幹線開業に向けた課題の整理

①新幹線開業効果を活かした嬉野温泉活性化のためのバス交通等の充実・活用

- 新幹線嬉野温泉駅の「広域観光交流拠点」(市街地や温泉街などの観光地に人の流れを誘導する広域的玄関口)としての役割を積極的に活用・顕在化させるために、新幹線嬉野温泉駅と温泉街(中心部)との公共交通アクセスの充実を図る必要がある。(駅名である嬉野温泉との一体性が実感できるよう、ストレスなく移動できるようにすることが重要。)
- 新幹線利用者が待合時間等を利用して温泉街や近隣の観光資源等を楽しめる場づくりとして、温泉街での観光拠点機能の充実を図る。(地域内交通の結節点であるバスターミナルにおいて、周辺観光資源等の情報発信や体験・物販等の機能を確保し、新幹線嬉野温泉駅との相乗効果を図る必要がある。→新幹線嬉野温泉駅での観光情報発信にあわせて、至近距離に魅力ある温泉街があることを活かし、新幹線利用者の待合い機能の一部を温泉街(バスターミナル)が担うことにより、他の新幹線にはない魅力づくりをおこなう。)

②嬉野医療センター移転に合わせた市民生活の日常的な足としての

バス交通の充実・活用

- 新幹線嬉野温泉駅周辺に嬉野医療センターが移転するにあわせて、新幹線嬉野温泉駅周辺は、広域および市民の嬉野医療センター利用者に対応したサービス機能の確保と市全域・周辺地域からのアクセス性向上が必要である。
- また、嬉野医療センター利用者の利便性を高める上で、日常の買い物や金融機関・各種手続きなどの生活サービスと一体的に利用したり、待合時間などを利用した娯楽・くつろぎの場の利用ができるようにすることも重要であり、既存の生活サービス関連施設が集積している温泉街(中心部)との連携が必要である。

(2) 嬉野温泉バスセンターの課題の整理

①交通結節点機能としての利便性向上と利用者増

- ・嬉野温泉バスセンターは、市内路線および広域路線が集約しており、路線配置的には利便性の高い施設になっているが、バス利用者は減少傾向にあり、市民の日常的な足としての利便性向上と観光・来街者の移動手段としての利用促進を図る必要がある。特に、市内路線については、市民の日常生活と通学、観光利用を兼ねたバス等の運行とバスターミナルでのサービス機能充実が必要である。
- ・送迎用の自家用車や観光案内所利用者が駐車するスペースの確保が必要である。また、多様な来街者ニーズに対応するため、レンタサイクルなどの二次交通の充実が必要である。
- ・民間施設であるため、乗合タクシー等が入れないことから、乗り入れについて調整を行う必要がある。

②中心市街地の活性化等に資する機能の確保

- ・公共交通の利用促進のためには、路線やダイヤの利便性の高さに加えて、交通結節点の生活サービス機能の充実や魅力化も重要であり、市民が日常的に利用したいと感じるバスターミナルの機能確保を図る必要がある。
- ・また、バスターミナルに多くの人が集まるようにすることにより、中心市街地との連携により、中心市街地全体の活性化につなげていく必要がある。(バスターミナルで、特産品などの即売会や朝市・夕市などを開催することにより、それを目的にバスターミナルに出向くバス利用者なども期待される。また、病院利用などの行き帰りにバスターミナルに寄る人の増加などにより、バス利用者全体の増加を期待する。あわせて、イベント開催等や観光情報サービスの充実などにより、観光客が集まるバスターミナルが実現し、バス利用者の多様化・増加につながると考えられる。)

③老朽化への対応と建築物の有効活用

- ・嬉野温泉バスセンターの建築物は昭和45年に建築され、老朽化が進んでいるほか、2階部分は一部利用されておらず、安全面・有効活用面で問題があると考えられる。したがって、地域の賑わい創出などに寄与できる機能を付加した形での適正規模のバスターミナルの再整備が必要である。
- ・バスターミナルにあわせて、既存の観光案内所(観光協会)のほか、生活サービス・観光振興に対応した機能として、イベントや物産・展示等に利用できるスペースを確保する必要がある。

4. 先進事例の整理

(1) 生活利用と観光利用によるバス利用の活性化

○北塩原村（福島県）：喜多方～裏磐梯バス路線

- ・喜多方～裏磐梯路線は、村の高校生が自宅を離れて下宿生活を余儀なくされている現状を解消するために始まったものであるが、自然豊かな裏磐梯地区と食文化で有名な喜多方市を結ぶ路線における観光の移動手段としての役割も考え、生活交通と観光交通の双方に便利な路線を設置することで、多様な顧客層の利用促進を図っている。
- ・さらに高齢者に対し、公共交通機関が存在することで外出の機会を増やし、健康増進に寄与することも期待している。

○明日香村（奈良県）：かめバス

- ・実証実験や検討を経て、周遊バス（愛称「赤かめ」）、循環バス（愛称「金かめ」）の2種類のバスシステムが運行されており、「かめバス」と総称されている。
 - 周遊バス（赤かめ）は、近鉄飛鳥駅から村内主要遺跡を経て、近鉄橿原神宮前を奈良交通の中型バスが結んでいる奈良交通の運営する路線である。観光シーズンの春・秋にかけては、昼間を約30分間隔に増便し、観光客に対しても柔軟に対応している。運賃は、奈良交通の認可運賃（対距離制）となっている。
 - 循環バス（金かめ）は、村内各地域を村所有のマイクロバス（奈良交通へ運行委託）で循環しており、1日に7便運行している。運賃は、1回あたり100円の均一制で、満70歳以上、障害者、小学生以下は無料で利用可能となっている。運転業務については、奈良交通の運転手派遣センターの運転手を雇用している。
- ・一部の山間地域についてはマイクロバスによる運行が難しく、費用対効果も勘案した結果、コミュニティタクシーを運行することとした（橿原タクシーに運行委託）。また、飛鳥地区については従来運行していた循環バス路線が廃止されたため、地区在住の70歳以上の高齢者については高齢者優待乗車券を配布し、無料で乗車できる仕組みとしている。
- ・健康福祉センター・石舞台・飛鳥資料館前などの停留所を乗り継ぎターミナルとして、周遊バスと循環バスを相互乗り入れするゾーンバスシステムを導入している。

○有田町（佐賀県）：町内巡回バス「有田町コミュニティバス」

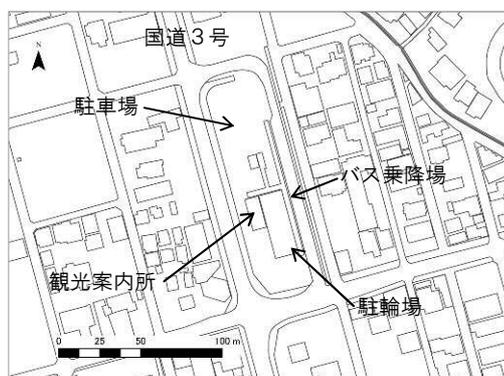
- ・平成12年6月に旧有田町で運行開始され、平成18年3月の合併を機に、同年5月から旧西有田町にも導入された。
- ・平日は、旧有田町において、「東西線」6便、「南北線」4便、旧西有田町において、「曲川有田線」4便、「大山東線」4便、「大山西線」4便、「西方線」1便を運行している。（平成20年3月現在）

- ・土・日・祝日は、旧有田町において、有田駅を起点に「東方線」8 便、「西方線」4 便、「南方線」2 便を運行している。旧西有田町については運行していない。また観光客対応として、観光スポットの多い「東方線」を平日よりも増便し、「南方線」を有田ポーセリンパークという観光施設まで延長している。

(2) 利便性が高いバスターミナルの整備

○山鹿バスターミナル・山鹿バスの駅（熊本県山鹿市）

- ・山鹿市は、バスが唯一の公共交通機関であり、各バス会社のバス停が点在し不便な状況であったが、バス乗り換え利便性の改善のために、山鹿バスの駅を整備した。
- ・待合スペースのほか、九州産交バス山鹿営業所が併設。山鹿温泉観光協会（観光案内所）および飲泉塔、駐車場、駐輪場、トイレが併設している。



(3) 地域活性化・観光振興等を考慮したバスターミナル

○淡路島・東浦バスターミナル（兵庫県淡路市）

- ・JRバス、淡路交通等による高速バス、淡路市北部生活観光バス（本四海峡バスが市から運航委託）および路線バス（淡路交通）のバスターミナルと一体的に物産館、農産物直売所や文化教養施設（陶芸体験館・美術館）等が整備され、隣接する公園等とともに「東浦ターミナルパーク（道の駅）」を形成している。



○唐津市大手口センタービル

- ・唐津市中心部の大手口に位置し、JR唐津駅から約500m離れている。
- ・旧バスセンタービル跡地に再開発ビル「大手口センタービル」を整備。
- ・市民の交流拠点として、空洞化が進む中心街再生のけん引役として期待。
- ・1階はバスセンターと店舗。2階・4階は医院・事務所・店舗等、3階は市民交流プラザが立地。5・6階には市役所の一部（商工観光部・農林水産部など）が移転。

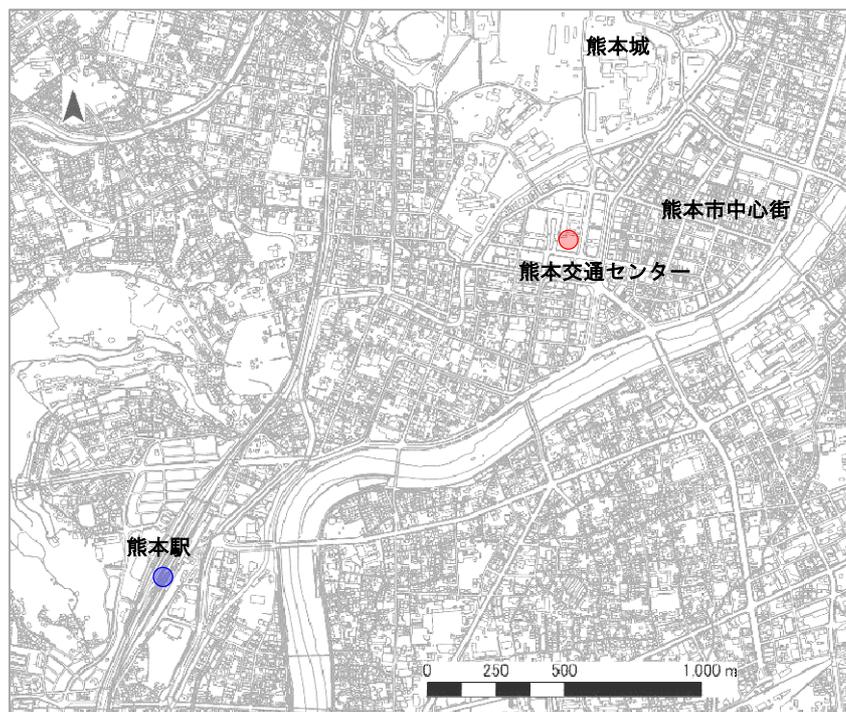


(4) 新幹線駅とバスターミナルが離れている事例

(※新幹線嬉野温泉駅と嬉野温泉バスセンター間は、約2 km)

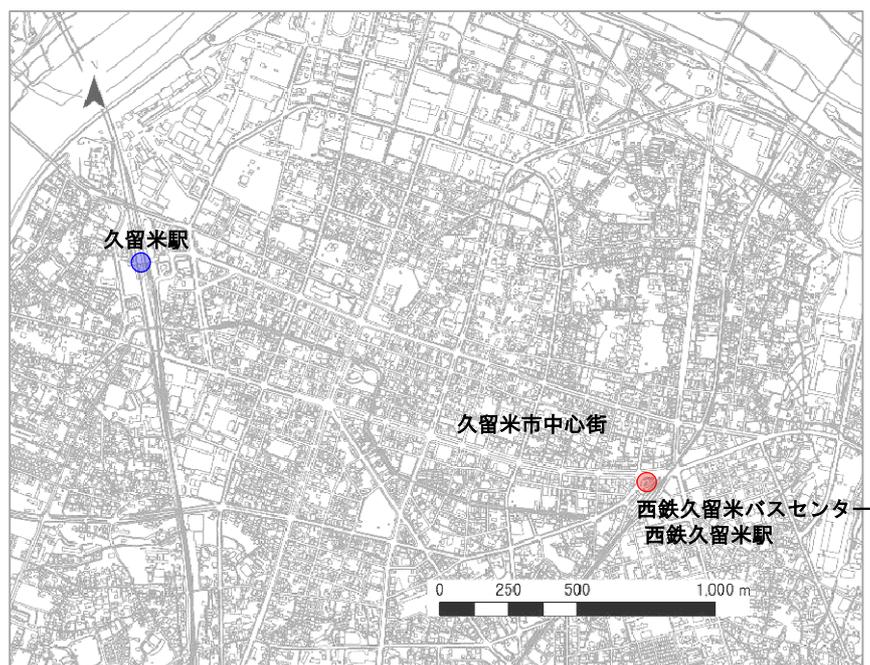
○熊本駅

- 熊本駅から熊本交通センターまで約2.2 km。
- 熊本交通センターは、熊本市中心街に近接している。



○久留米駅

- 久留米駅から西鉄久留米バスセンターまで約2.2 km
- 西鉄久留米バスセンターは、久留米市中心街に近接している。



5. 嬉野市のあるべき公共交通体系

(1) 嬉野市の公共交通網の考え方

①市内の公共交通体系の考え方

- 既存のバス路線および廃止路線代替バス沿線地域の乗合タクシー運営等により、市内全域から中心市街地（嬉野温泉バスセンター）に公共交通機関でアクセスできる交通環境を確保することを基本とする。
- 中心市街地の公共交通利便性を確保し、歩いて生活できるまちづくりを実現するために、嬉野温泉バスターミナルと新幹線嬉野温泉駅および嬉野IC高速バス停留所を結ぶ循環バスルートを設定する。
- これらの市内バス路線は、市民の日常的な買い物・通院や新幹線・高速バス利用の移動手段のほか、通学や市内観光の手段としても活用し、安定した利用者数と利便性の高い運行状況の確保を図る。
- 市内バス路線の利用促進を図るための乗車料金の優遇等を実施する。（商店街買い物きっぷや観光周遊きっぷなど、自家用車に対する駐車場サービスに替わるバス利用者への乗車料金サービスが実施できるようにすることを検討する必要がある。）

②広域公共交通体系の考え方

- 高齢社会が進行している中で、公共交通による安全で環境にやさしい移動を促進していく観点から、既存の広域基幹バス路線は存続していくことが望まれる。
- 嬉野温泉は宿泊・県外利用者が多いことから、嬉野温泉を起点とした滞在・周遊型観光が展開される環境を有していると考えられるため、広域的な観光地等へのアクセス手段としての広域基幹バスの利用促進を図る方針とする。また、新幹線開業により、新幹線利用による観光客の増加が期待される中で、移動手段としてバス利用が高まる可能性は高いと考えられる。
- 生活面では、近隣の主要な商業施設利用や病院利用などの移動手段として、バス利用の促進を図る。（主要な商業・観光施設や市によるバス利用券(割引券)などの発行・配布を実施することも検討する必要がある。）

(2) 公共交通結節点の役割分担の考え方

嬉野温泉バスセンターと新幹線嬉野温泉駅、嬉野ICバス停留所、嬉野市役所塩田庁舎前バス停留所の4つの公共交通結節点について、それぞれの特性を活かしながら、相乗効果が発揮できるように役割分担を行う。

① 嬉野温泉バスセンター

- 中心市街地（温泉街）に位置することから、バスセンターの集客力を温泉街や商店街などの中心市街地に波及することのできる利活用が望まれる。また、中心市街地の利便性・生活サービス機能の向上などにより、温泉街・中心市街地への来街者が増加し、バスセンターの利用者増の効果も期待されることから、バスセンターを市民生活・観光文化交流の拠点地区として位置づけ、公共交通機能に加え、観光物産や地場製品の展示即売、観光および市民を対象としたイベント等の開催ができる施設として再整備していく方針とする。
- なお、生活・観光文化交流の拠点地区としての位置づけのもと、基本的に市内バス路線および主要な周辺・広域バス路線は嬉野温泉バスセンターに集約し、「ここから、どこにでもアクセスできる場所」にすることが重要であると考ええる。
- バスセンターの位置は、上記役割を果たすことのできる規模（現状のバスセンターと同等規模）と中心市街地（温泉街との連携）を考慮すると、現位置での再整備・機能充実が望まれる。

② 新幹線嬉野温泉駅

- 新幹線利用者や嬉野医療センターの利用者のための公共交通ターミナル機能を確保するものとし、嬉野温泉バスセンターとの連携により、サービス機能（買い物、飲食、各種手続き、娯楽・休息(温泉利用等)）の確保を図る。
- 新幹線利用者は、観光・ビジネスが多いと予想される中で、新幹線嬉野温泉駅から市内各所および周辺地域に移動する際に、嬉野温泉バスセンターのバス路線との連携により、乗換え利便性の向上を図る。バス利用の効率性と利便性を考慮すると、新幹線嬉野温泉駅のバスルートは、基本的に嬉野温泉バスセンターを経由することにより、アクセスする路線と運行頻度を効率的に高めることが有効であると考えられる。
- 嬉野医療センターの利用者のためのバス路線についても、市内および周辺地域からのアクセスを効率的に充実するために、嬉野温泉バスセンターと連携した路線確保が有効であると考ええる。

③ 嬉野 I C 高速バス停留所

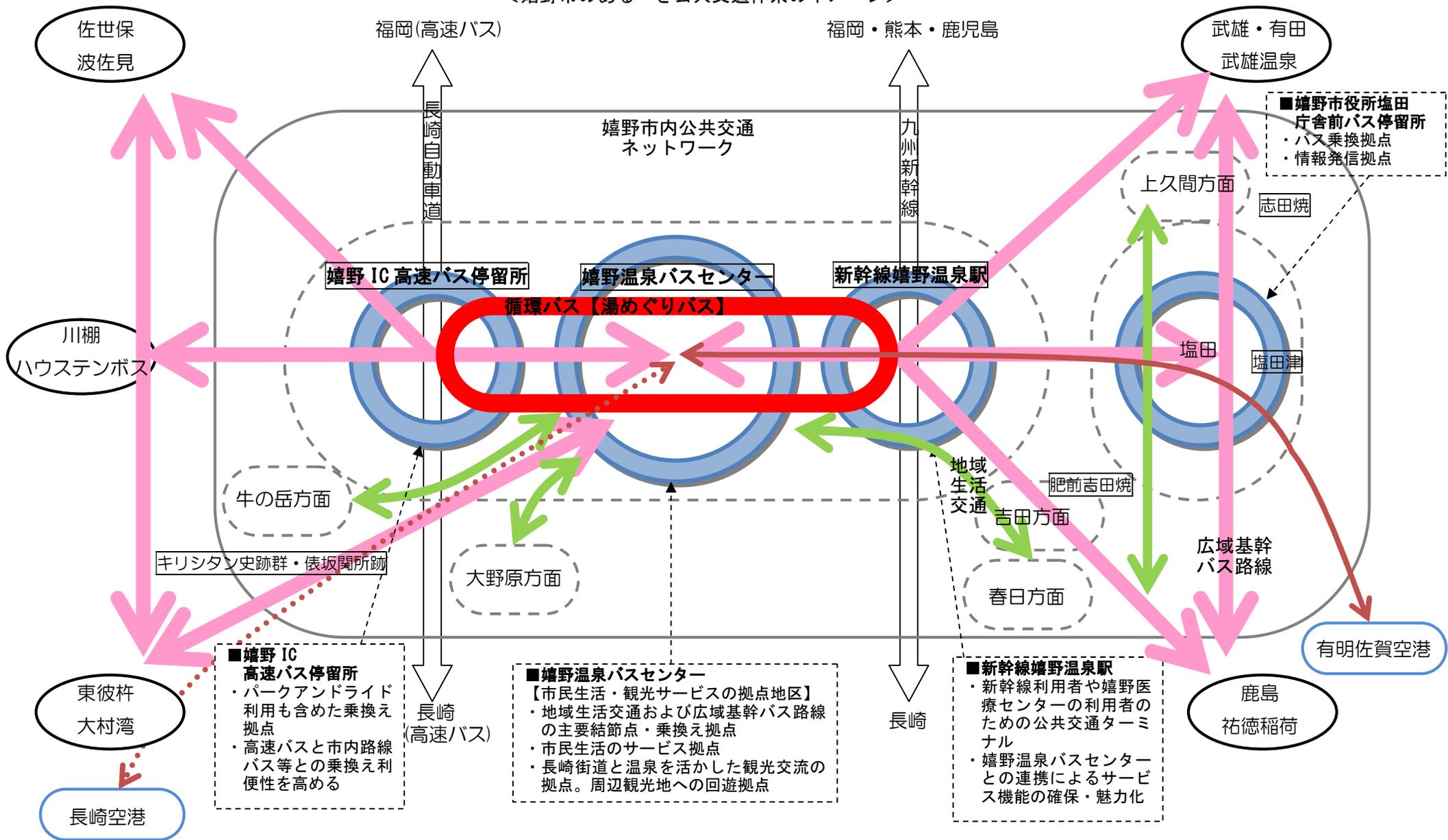
- 高速バスと市内路線バスおよび周辺路線バス等との乗換え利便性を高めるほか、高速バス利用者の中心市街地（温泉街）滞留を促進するために、嬉野温泉バスセンターと嬉野 I C 高速バス停留所を結ぶバス路線等の充実を図る方針とする。
- また、嬉野 I C 高速バス停留所は基本的にパークアンドライド利用も含めた乗換え拠点としてのサービス機能（待合い・情報発信等）の充実を図る方針とする。

④ 嬉野市役所塩田庁舎前バス停留所

- 塩田町の中心部に位置し、祐徳線（鹿島～塩田～武雄）、嬉野線（鹿島～塩田～嬉野）、上久間線の路線が交わることから、バス停間の乗換えや周辺施設等の案内、待合スペースの充実など、塩田地域中心部の交通結節点としての機能充実を図る方針とする。

※パークアンドライドとは、自宅から最寄りの駅に近い駐車場に駐車（パーク）し、そこから電車・バスなど公共交通機関に乗って（ライド）目的地に移動する方法のこと。

＜嬉野市のあるべき公共交通体系のイメージ＞



【参考】新幹線開業前後の交通結節点の役割

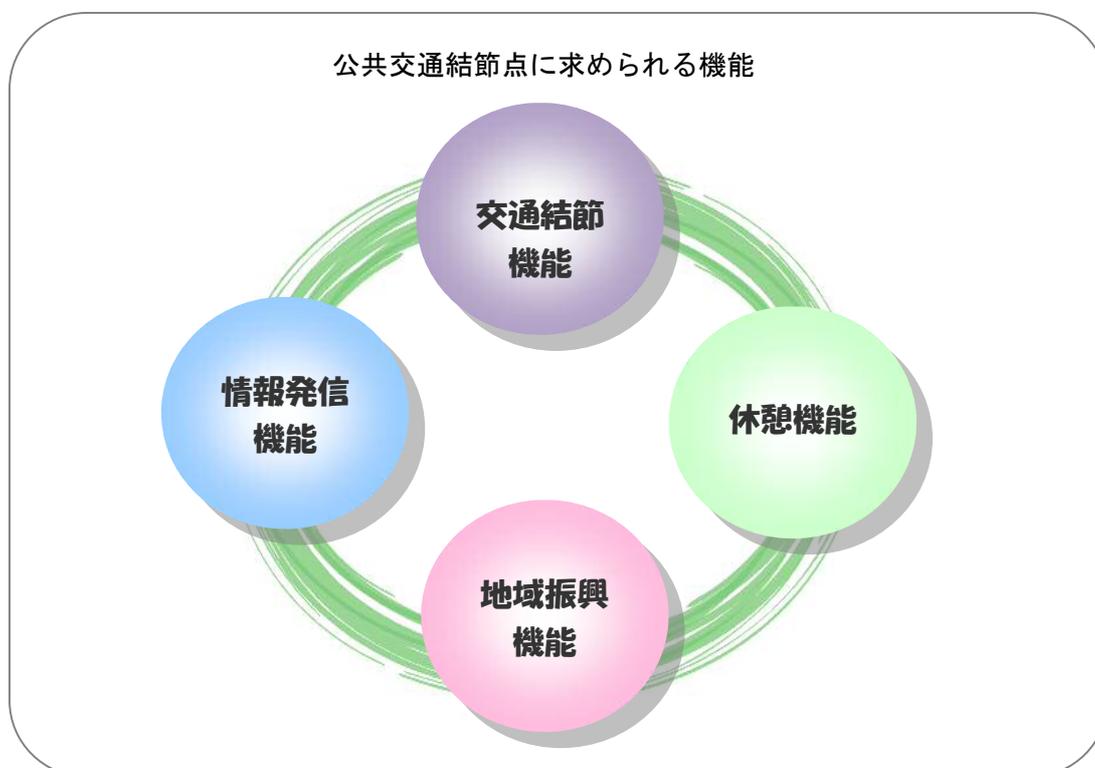
	嬉野温泉 バスセンター	新幹線 嬉野温泉駅	嬉野 I C 高速バス停留所	嬉野市役所 塩田庁舎前 バス停留所
新幹線開業前	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中心市街地・温泉街の最寄バスセンター 	—	<ul style="list-style-type: none"> ・ パークアンドライド利用も含めた乗換え拠点 	<ul style="list-style-type: none"> ・ バス停留所
				
新幹線開業後	<p>【市民生活・観光サービスの拠点地区】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域生活交通および広域基幹バス路線の主要結節点・乗換え拠点 ・ 市民生活のサービス拠点 ・ 長崎街道と温泉を活かした観光文化交流の拠点。周辺観光地への回遊拠点 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新幹線利用者や嬉野医療センターの利用者のための公共交通ターミナル ・ 嬉野温泉バスセンターとの連携によるサービス機能の確保・魅力化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ パークアンドライド利用も含めた乗換え拠点 ・ 高速バスと市内路線バス等との乗換え利便性を高める 	<ul style="list-style-type: none"> ・ バス乗換え拠点 ・ 情報発信拠点

6. 重点施策の検討

(1) 公共交通結節点への導入機能の検討

導入機能は、バス利用者や地域住民の利便性・快適性に配慮するとともに、地域活性化の視点も考慮し、各交通結節点の役割を踏まえた上で交通結節機能、情報機能、休憩機能、地域振興機能を持たせることが必要である。

機能	求められる役割
交通結節機能	バスとバスの乗り継ぎは、もとより、タクシーや自家用車との乗り継ぎも考慮した施設整備が必要である。
情報機能	バス利用者に対して、バス運行情報を提供するとともに、特に来訪者に対しては、観光、特産品などの地域情報、さらには、旅行目的地に関する情報を提供することが必要である。
休憩機能	バス利用者の休憩施設の確保はもとより、地域住民の利用も考慮した施設整備も重要である。
地域振興機能	来訪者の利便性・快適性向上の観点からおみやげ品などの特産品販売をする施設の配置が必要である。売店やコンビニ等を誘致し、委託販売することも考えられる。



① 嬉野温泉バスセンター

機 能	導入機能	具体的施設例
交通結節機能	<p>バスとバスの乗り継ぎは、もとより、タクシーや自家用車などの二次交通との乗り継ぎ機能を充実する。</p> <p>○バスからバスへの乗り継ぎ機能 ○バスとタクシー、自家用車、自転車との乗り継ぎ機能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・バスバース ・バス停車場 ・タクシー乗降場 ・自家用車乗降場 ・駐車場 ・自転車駐車場 ・レンタサイクル施設
情報機能	<p>中心市街地に位置し、中心的な交通結節点として、バス利用者に対して、バス運行情報を提供するとともに、特に来訪者に対しては、観光、特産品などの地域情報、さらには、旅行目的地に関する情報を提供する機能を充実する。</p> <p>○バス運行情報を発信する機能 ○バスチケット販売機能 ○観光客への観光・物産・交通・目的地情報の発信と観光客ニーズを受信する機能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・バス案内所 ・観光・地域情報案内所
休憩機能	<p>バス利用者の休憩機能の確保はもとより、中心市街地への来訪者や地域住民の利用も考慮した休憩機能を充実する。</p> <p>○バス待合いのひとときをくつろいで過ごせる機能 ○市民や近隣市町住民の憩い空間としての機能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・休憩施設 (ベンチ、カフェなど) ・トイレ
地域振興機能	<p>中心市街地活性化や来訪者の利便性・快適性向上の観点から地域特産物などを販売をする機能を導入するとともに、観光物産や地場産品の展示即売、観光及び市民を対象としたイベント等の開催ができる機能を導入する。 導入にあたっては、商業施設等を誘致することも考えられる。</p> <p>○地域の特産品などを販売・PR する機能 ○イベント機能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域アンテナショップ ・店舗の誘致、委託販売等

② 新幹線嬉野温泉駅

機 能	導入機能	具体的施設例
交通結節機能	<p>新幹線の二次交通の結節点として、バス、タクシーや自家用車等との乗り継ぎ機能を導入する。</p> <p>○新幹線からバス、タクシー、自家用車、自転車との乗り継ぎ機能 ○バスからバスへの乗り継ぎ機能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・バスバース ・バス停車場 ・タクシー乗降場 ・自家用車乗降場 ・駐車場 ・自転車駐車場 ・レンタサイクル施設
情報機能	<p>広域交通結節点として、新幹線から二次交通に乗り換える利用者に対して、バス運行情報を提供するとともに、特に来訪者に対しては、観光、特産品などの地域情報、さらには、旅行目的地に関する情報を提供する機能を導入する。</p> <p>○バス運行情報を発信する機能 ○観光客への観光・物産・交通・目的地情報の発信と観光客ニーズを受信する機能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・バス案内板 ・観光・地域情報案内所
休憩機能	<p>新幹線やバス利用者の休憩機能の確保はもとより、来訪者や地域住民の利用も考慮した休憩機能を導入する。</p> <p>○新幹線・バス待合いのひとときをくつろいで過ごせる機能 ○市民や近隣市町住民の憩い空間としての機能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・休憩施設 (ベンチ、カフェなど) ・トイレ
地域振興機能	<p>来訪者の利便性・快適性向上の観点から地域特産物などを販売をする機能を導入するとともに、観光物産や地場製品の展示即売、観光及び市民を対象としたイベント等の開催ができる機能を導入する。</p> <p>導入にあたっては、商業施設等を誘致することも考えられる。</p> <p>○地域の特産品などを販売・PR する機能 ○地域情報など通じて市街地へ人を導き、地域での消費を促す機能 ○イベント機能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域アンテナショップ ・店舗の誘致、委託販売等

③ 嬉野 IC 高速バス停留所

機 能	導入機能	具体的施設例
交通結節機能	<p>高速バスから循環バス、タクシー、自家用車などの二次交通との乗り継ぎ機能を充実する。</p> <p>○高速バスから循環バスへの乗り継ぎ機能 ○高速バスとタクシー、自家用車等との乗り継ぎ機能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・バスバース ・タクシー乗降場 ・自家用車乗降場 ・駐車場 ・自転車駐車場
情報機能	<p>高速バス利用者に対して、バス運行情報を提供するとともに、特に来訪者に対しては、観光、特産品などの地域情報、さらには、旅行目的地に関する情報を提供する機能を充実する。</p> <p>○バス運行情報を発信する機能 ○観光客への観光・物産・交通・目的地情報の発信する機能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・バス案内板 ・観光・地域情報案内板
休憩機能	<p>バス利用者のための休憩機能を維持する。</p> <p>○バス待合いのひとときをくつろいで過ごせる機能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・休憩施設（ベンチなど） ・トイレ
地域振興機能	—	—

④ 嬉野市役所塩田庁舎前バス停留所

機 能	導入機能	具体的施設例
交通結節機能	<p>バスとの乗り継ぎ機能を充実する。</p> <p>○3ヶ所に分かれているバス停の案内表示</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・バスバース ・バス停案内板
情報機能	<p>バス路線情報を提供するとともに、特に来訪者に対しては、観光、特産品などの地域情報、さらには、旅行目的地に関する情報を提供する機能を導入する。</p> <p>○バス運行情報を発信する機能</p> <p>○観光客への観光・物産・交通・目的地情報の発信する機能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・バス案内板 ・観光・地域情報案内板
休憩機能	<p>バス利用者のための休憩機能を充実する。</p> <p>○バス待合いのひとときをくつろいで過ごせる機能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・休憩施設（ベンチなど）
地域振興機能	—	—

各交通結節点に導入すべき機能

		嬉野温泉 バスセンター	新幹線 嬉野温泉駅	嬉野 I C 高速バス 停留所	嬉野市役所 塩田庁舎前 バス停留所
交通結節 機能	バス乗り継ぎ 機能	○	○	○	○
	バスと他交通 機関との乗り 継ぎ機能	○	○	○	—
情報機能	バス運行情報 機能	○	—	○	—
	バスチケット 販売機能	○	—	—	—
	観光等情報の 受発信機能	○	○	○	○
休憩機能	バス待ち休憩 機能	○	○	○	○
	周辺住民の休 憩機能	○	○	—	—
地域振興 機能	特産品販売 PR 機能	○	○	—	—
	イベント開催 機能	○	○	—	—